毎月1回 25日発行

はしもと☆ランド

第120号 8月25日

創刊10周年記念特別号

ホームページ リニューアルしました!!
http://hashimoto-land.com はしもとランド 検索

■発行・編集・印刷■橋本新聞販売株式会社　企画部　丸岡・高橋
〒370-0063 高崎市飯玉町42　0120-004950 e-mail:takahashi@hashimoto-land.com

おかげさまで10周年！ はしもと☆ランド10年のあゆみ

「他にはない、独自のお客様サービスを！」との社長（現・会長）の言葉を受け、若手社員有志によって2002年8月「はしもと★ランド」は誕生しました。それから10年、読者の皆様に支えていただきながら、120号を迎えることができました。今回は特別号として、はしもと★ランドの10年間の歩みと現在の橋本新聞販売㈱のお客様サービスをご紹介します!!

プレゼント当選者第1号の岡庭さん

2002年、FIFAワールドカップが日本と韓国で共同開催された年に生まれたはしもと☆ランド。手書き＆切り張りの紙面で、社長（現・会長）の挨拶に始まり、新聞販売店の業務内容や地域のサッカーチームの取材など、地域密着のローカルな内容でした。中でも注目なのはプレゼント当選者が次号に紹介されている事。今回、創刊号プレゼント当選者第1号の岡庭様に10年後のコメントをいただきました。

「はしもとランド」創刊第一号の当選者だったとは思いませんでしたので、メールをいただいて、感慨も新たにしております。当時7歳で、自転車と同じ程の背丈だった息子も今では、親を超すほど心身ともに成長しました。「はしもとランド」がこの10年間私たちに役立つ情報を与え続けてくださったことに感謝するとともに、これからの更なる発展を願っています。頑張ってください。

ずっと弊社から朝日新聞をご購読いただいている岡庭様、ご協力ありがとうございました!!

⇒

16号より、「青年部」から「企画部」という名称になり、ワープロを使って原稿が作られるようになりました。内容も地域のイベントのみならず、県内のイベント情報や生活情報が盛り込まれています。17号より毎月1回25日発行と決められました。

⇒

初めてのバスツアー記念写真

2005年8月10日に初めてのバスツアー（大英博至宝展見学）を実施。当時は定員40名に対し約10倍の応募があり、見事難関を突破されツアーに参加された方々との記念写真が紹介されています。

⇒

制作にパソコンを使用し始め、創刊時に比べ紙面が見やすく読みやすく変わってきました。この頃からホームページ公開の準備も始まりました。

⇓

2006年7月1日 ホームページ公開！

⇐

上州をゆく①

群馬県のドラマを訪ねるノンフィクションエッセイ「上州をゆく」連載開始。知らなかった群馬の歴史が明らかに！

⇐

キャメルンからの手紙①

空羽ファティマによるコラム「キャメルンからの手紙」連載開始。小さな子どもを持つ若いママ達に大人気!!

⇑

2012年8月1日 ホームページリニューアル！

橋本新聞㈱の主なお客様サービス

●地元ふれあいニュース●
当店エリア内のイベントを取材しチラシを制作、地域の皆様にお知らせしています。

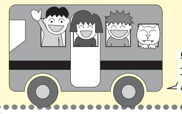
●ホームページ●
県内のイベント・観光情報等豊富な内容お届け。ブログも人気上昇中！

●マイタウン●
地元商店や企業のお得な情報を発信しています。

●オリジナル&似顔絵カレンダー●
お客様の大切な写真やお子さんが描いたお母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃんの似顔絵を入れたオリジナルカレンダーを無料で作成します。

●古紙回収・小学校へ本を寄贈●
毎月1回古紙回収を行い、その売り上げで、当店エリアにある8つの小学校へ本を寄贈しています。

●サンタの訪問企画●
読者宅をサンタがプレゼントを持って訪問、後日サンタと一緒に撮った写真をパウチしてお届けいたします。



●バスツアー●
年に4・5回、格安のバスツアーを実施、毎回大人気です。

上州をゆく ⑦⓪ ～広がる神秘の世界― 赤城山～

ペンネーム 国定忠治（高崎在住）

「裾野は長し、赤城山」（上毛かるた）――高さは1828メートル（黒檜山＝外輪山）で富士山の半分以下なのに、裾野の長さは約35キロで富士山に次ぐ。赤城山とは、どこまでも続く裾野の上にそびえ立つ7峰を束ねた総称である。

赤城山は原始の昔から神々の山として崇められてきた。山頂中央部のカルデラ湖は大沼と呼ばれ、近くの小沼と共に赤城山信仰の中心として、人々の尊崇の念を集めてきた。その畔に神庫山（地蔵岳）から赤城神社が遷宮されたのは、約1200年前の806年。江戸時代には、前橋城主で大老だった酒井忠世によって徳川家康が合祀され、将軍家や大名たちの信仰を集めた。今では日本各地に赤城神社は存在する。

1642年、徳川家光が火事で焼失した社殿を再建したが、赤城山の自然は厳しく、長い年月を経る中で社殿は荒廃した。そのため1970年、小鳥ケ島に新社殿を造営し、今日に至っている。現在、山は信仰の聖地としてばかりでなく、スキーやワカサギ釣り、ハイキングなど県民の憩いの場としても親しまれている。

前橋の小暮（旧富士見村）にある「赤城大鳥居」をくぐり、赤城神社を目指して車で山を上った。急カーブが連続する県道を走っていると、急に車内がひんやりしてきた。標高は千メートルを越え、雲が間近に見えた。いよいよ神の宿る神秘の世界に突入したのだろうか。

神社への入り口となる「神橋」を渡ると、神の世界に至る。朱色の社殿が目の前に現れた。ここが家から見える赤城山の頂上だとは、にわかには信じられなかった。家から見えるあの大きな山に、車で家を出てから2時間もかからずに上ってしまったからだ。山岳信仰の聖地は、貸ボートやバンガローなどレジャー施設も多い。しかし下界を悠然と見下ろす泰然自若とした山の姿は太古から変わらない。そうした姿に人々は畏怖の念を抱き、古来、神の宿る地として崇めてきたのだろう。

朱色に輝く赤城神社

神社跡地の鳥居